

公益社団法人日本地震工学会論文集審査規程

2012年12月7日制定

1. 投稿区分

地震工学及び地震防災の発展に資する工学、理学、社会学、人文学等の幅広い分野について、下記の4区分、論文・報告・ノート・討論とする。ただし、特集号については、総説・寄稿も区分に加える。

(1) 論文

理論、実証、または調査に基づく分析・解析を取りまとめたもので、新規性、獨創性、有用性、信頼性、および発展性を有するもの。

(2) 報告

事例報告で、有用性、信頼性、および新規性を有するもの。

(3) ノート

過去の論文や報告を補遺する有用なデータ・数表・図表など。突発災害の調査結果などで緊急性を要する報告も含む。また、萌芽的な試論で顕著な展開が期待されるもの。

(4) 討論

既掲載の論文、報告、ノートに対する討論。

(5) 総説・寄稿 (特集号のみ)

総説は特集号の課題に関する研究成果を総覧し、総合的にまとめたもの、および研究の現状あるいは将来への展望などにふれたもの、寄稿は特集号の課題に対する評論や随想などのこれ以外に該当する分類がないもの。

2. 審査基準

政治的意図、あるいは宣伝の意図をもたないものを査読の対象とする。

論文、報告については以下の4種類の判定を行なうこととする。

1. 採用：字句や簡易な修正はあるものの、ほぼそのままの形で掲載が可能である。
2. 条件付き採用：掲載するために必要な修正(表現や体裁の明確なミス、追加説明など)はあるものの、再査読は必要ない。
3. 再査読：掲載するために必要な修正があり、適切な修正が行われているかの評価を行うための再査読を行い採用の可否を評価する。

4. 不採用 (i)論文の不採用の理由：新規性、独創性、有用性、信頼性、発展性などが乏しい。) (ii)報告の不採用の理由：新規性、有用性、信頼性などが乏しい。)

ノートについては、以下の3種類の判定を行なうこととする。

1. 採用：そのままの形で掲載が可能である。
2. 条件付採用：字句あるいは簡単な修正が必要、再査読は必要ない。
3. 不採用 (速報：データ不採用の理由：有用性・信頼性が乏しい。)

討論については、以下の3種類の判定を行なうこととする。

1. 採用：そのままの形で掲載が可能である。
2. 条件付採用：字句あるいは簡単な修正が必要、再査読は必要ない。
3. 不採用 (討論不採用の理由：議論が適切でなく、客観性が著しく欠けている。)

総説・寄稿については、掲載可否の審査ではなく、掲載の適否の評価であり、以下の3種類の判定を行なうこととする。

1. 採用：そのままの形で掲載が可能である。
2. 条件付採用：字句あるいは簡単な修正が必要である。
3. 不採用 (寄稿不採用の理由：内容が特集号の趣旨に逸脱している、また、著しく偏った経験や意見がまとめられている。)

	採用	条件付き採用	再査読	不採用
論文・報告	○	○	○	○
ノート	○	○	—	○
討論	○	○	—	○
総説・寄稿	○	○	—	○

附則

- 1) この規程は、内閣総理大臣による公益認定を受けた日から施行される。
- 2) 公益認定を受けた日は、2013年5月1日である。